

「弥生の館むきばんだ」では、弥生人たちの生活を想像できるような展示物を、実際に手にとって見ることができます。その展示物の中に弥生人たちが食料にしていた動植物が展示してあります。シカ、イノシシ、ウサギ、カエルといった動物や、キジ、ヤマドリ、サギ、カモ等の鳥類です。米等の穀物や木の実、野菜、魚等と共にバランスのよい食生活をしてきたことも、弥生人の骨の分せきから分かっています。

もちろん豊かな森林ですから、これらの動物たちのえさになった昆虫もたくさん住んでいたでしょう。今も、ここ、むきばんだ史跡公園の弥生の森には、様々な種類の昆虫がいます。トンボ、バッタ、チョウ、カブトムシ、ハチ等たくさんの虫を観察することができます。今回は、昆虫を観察して、記録に残す方法について体験してみることにしましょう。



昆虫にはサナギになるものがないものがあります。サナギにならない昆虫は、次のうちどれでしょう？

- ①チョウ ②バッタ ③トンボ ④ハチ → ()

むきばんだにいる昆虫をつかまえて、観察をしてみましょう。

チャレンジしよう

「昆虫の標本作り」に挑戦しよう！

【準備】 弁当箱などのとう명한容器 (タッパーなど)、だっしめん、防虫ざい、かんそうざい、ピンセット



①つかまえた虫は、生きたままにしておくといたむので、冷凍庫に入れるか、薬品の入った容器に入れ、保存します。*1



②かんそうざいの上のだっしめんを入れたとう명한容器の上で、足などをピンセットで整えます。*2



③1週間ほどして虫が十分にかわいたら、かんそうざいを取り出して、防虫ざいを入れて保存します。



④発ぼうスチロールの台等の上で胸の真ん中の少し右にとめばりをうち、まち針で固定してかわかす方法もあります。

コバネイナゴ
2011年9月20日
鳥取県西伯郡大山町妻木
晩田 太郎

⑤標本には、虫の名前、日付け、採集地、採集者を記入したラベルを付けます。

わなをしかけて、カブトムシをつかまえよう。



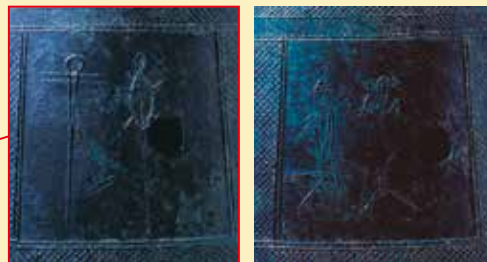
◎竹くしでバナナの表面にたくさんの穴を開けて、半日しょうちゅうにつけておきます。夕方カブトムシのいそうな木につるして、暗くなってから確かめに行ってみましょう。

*1. 薬品：けししょう品の除光液など。

*2. ちじこまった足はぬるま湯や水などでやわらかくします。

豆知識 1 銅鐸にえがかれた小動物たち

弥生時代の遺跡から発掘された、銅鐸や土器には、様々な種類の絵がえがかれたものがあります。その絵の中には、カマキリやクモ、トンボ、カエル、イモリ、カメ、カニ等数々の小動物が登場します。祭りに使われる銅鐸にえがかれていることから、これらの生き物たちは、弥生人たちの生活の中で、大切な意味を持っていたと考えられます。



兵庫県桜ヶ丘遺跡出土銅鐸
トンボ、イモリ、カマキリ、カエル、クモ
写真提供 神戸市立博物館

豆知識 2 成長と共に姿を変える昆虫たち

昆虫の多くは、幼虫から成虫になるときに姿を変えます。このことを変態といいます。バッタやセミ、トンボ等は、幼虫の体は成虫とよく似ていて、幼虫の背中には小さな羽が見えます。このような昆虫は、幼虫から直接脱皮して成虫へととなります。ところが、チョウやハチ、カブトムシ等は、幼虫と成虫の姿はまったく異なっており、幼虫からサナギをへて成虫となります。なぜ、サナギになるのかは、幼虫の状態ではえさを大量に食べて体を大きくしてから、さなぎの中で体の構造を大きく変える必要があるからなのです。

豆知識 3 弥生の森の昆虫たち

妻木晩田遺跡にはたくさんのバッタの仲間がいます。夏から秋にかけてたくさんの種類のバッタを見ることができます。その姿かたちは様々で、変化にとんでいます。また、それと同じように晩秋に見られるカメムシも様々な形のものがあります。まだ、見たことのない、めずらしい形の虫も見つかるかもしれませんね。ぜひ探してみてください。



シウリョウバッタ



コオロギ



イナゴ



ウマオイ



カマキリ



カメムシ



トンボ



チョウ

※みなさんは、何種類の昆虫標本を完成させましたか？ 今日の「昆虫博士」体験で発見したことやわかったこと等、感想をまとめてみましょう。
